

6月の水稻の管理

令和元年6月発行

J A新旭町 営農経済部

高島農業農村振興事務所農産普及課

1. 水の管理

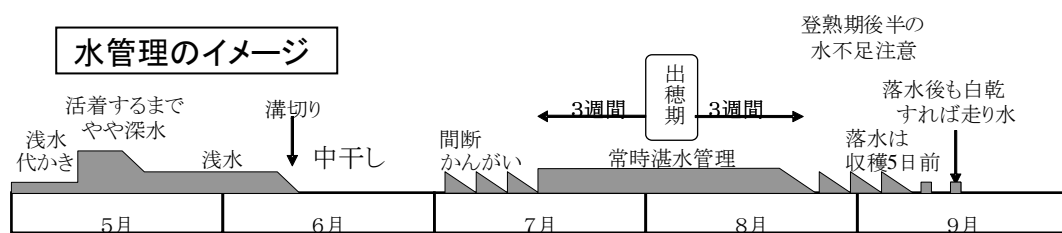
～水稻の管理のポイント～

- ① 浅水（水深3cm）管理と中干しで、適正な生育量を確保しましょう。
- ② 置き苗は、葉いもちの主要な伝染源となるため、早急に処分しましょう。
- ③ 追肥は、適期・適量施用につとめ、やりすぎないようにしましょう。

- (1) まだ株張りのとれていないほ場は浅水（3cm程度）とします。株張りが確保できたら、中干しを行います。生育初期の過繁茂は白未熟粒の増加による品質低下を招く要因の一つと考えられます。中干しにより、過繁茂を抑えます。
- (2) 5月中下旬からの高温で、還元障害を起こしていると思われるほ場では、症状が軽い場合は軽く干して土壤中に酸素供給を行います。
症状が重い場合は改善資材（畑のカルシウム）を施用し根の生育を助ける等の水管理に努めましょう。
- (3) 中干しは強制落水せず、自然減水でおこないましょう。
- (4) 中干し後は、間断かんがいを行います。
- (5) 水管理が短時間でほ場全体にできるように、中干し前に「溝切り」を行いましょう。
『（ご注意）環境保全型農業直接支払交付金の⑧IPMや⑪緩効性肥料+長期中干しに取り組んでおられる方は、原則 10aあたり 1 本以上の溝切りと、14 日以上の中干しが必要です』

▼（中干し開始時期の一株当たりの茎の数の目安）▼

70 株植→14～15 本/株、60 株植→17～18 本/株、50 株植→20～21 本/株
（5 月上～中旬植→茎数が確保できたら中干し開始 5 月下旬植→6/20 頃）

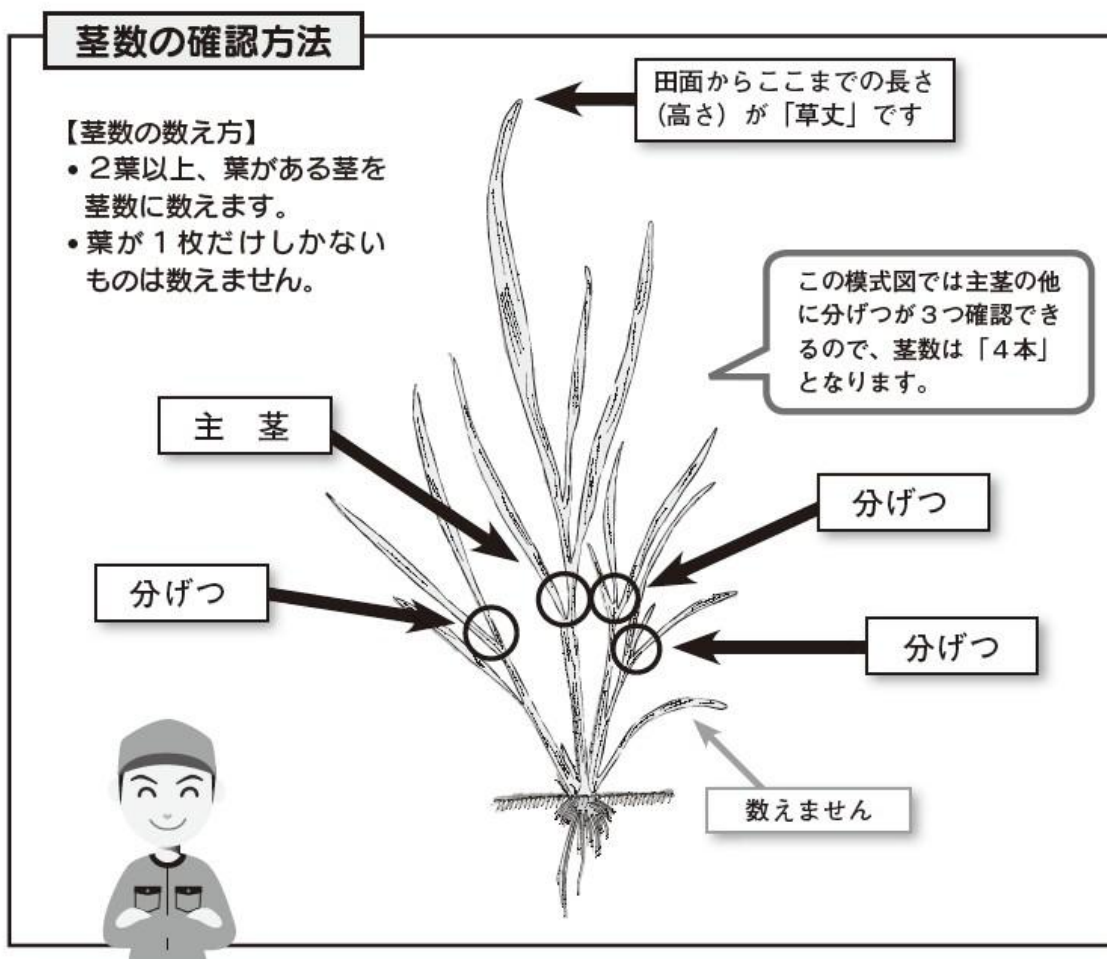


2. 追 肥

- (1) 側条施肥田植、緩効性肥料栽培
側条施肥田植および緩効性肥料栽培の場合は、追肥の必要はありません。
- (2) 速効性肥料栽培
 - ① 5 月中旬までの移植
早生品種（コシヒカリ・キヌヒカリ）は 6 月 10 日頃です。
中生・晩生品種（秋の詩、滋賀羽二重糯等）は 6 月 20～30 日頃です。
 - ② 5 月 20 日以降の移植
原則として追肥は施用しません。
 - ③ 毎年過繁茂となるほ場では、施用量を見直しましょう。

高温の日が続き、圃場によっては藻が多く発生しております。
一度、圃場を干して下さい。
中干しにより、根張りが良くなります。
健全な稲づくりを目指しましょう！

正しい茎数を確認する方法は、田んぼに入り、自分自身の手と目を使って確認することが重要です。



田植えが遅く、日照時間が不足した場合は地温の上昇が遅れ、生育が停滞気味になるので、分けつを促進するために浅水管理を行ってください。

生育不良、雑草、病害虫対策など、

J A 営農窓口へご相談下さい。(25-2628)